

今年の稲作は晩期栽培に取り組みましょう

田植え作業が5月20日頃となるように作業計画を立てましょう！

5月20日頃を田植え予定日とした場合、播種作業は4月20日以降で十分間に合います。この時期になると外気温が上がるので、苗の育ちは早く育苗期間は少なくて済みます。このため、種子初の水漬け開始は4月5日以降で十分間に合います。

晩期栽培は単に田植えを遅らせるだけでは効果がありません。播種作業と育苗時期も遅らせることで収量・品質ともに安定した稲作ができます。

早播き、早植えが出穂を早め、品質低下の大きな要因となっていますので、作業計画を見直しましょう。

晩期栽培カレンダー（目安）

田植え日から逆算した育苗計画を立て健苗育成をしましょう。

8月中旬の出穂期、9月下旬～10月上旬頃の収穫期を目標とします。

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 1) 水漬け | 4月5日以降 |
| 2) 播種作業 | 4月20日以降 |
| 3) 育苗期間（中苗） | 4月20日～5月20日（～25日） 育苗日数30日～35日 |
| 4) 耕起 | 4月下旬～5月上旬 |
| 5) 代掻き | 5月上旬～5月中旬 |
| 6) 田植え作業 | 5月20日～25日頃（植え付け時葉齢3.5葉） |
| 7) 出穂期 | 8月15日～20日頃 |
| 8) 収穫期 | 9月下旬～10月上旬 |

品種の早晩性（特性）を考慮しましょう

晩期栽培の効果（宮城県稲作指導指針より）

- 1) 障害不稔軽減・・・低温に最も弱い減数分裂期を8月上旬に遅らせて、障害不稔を回避できる。
- 2) 高温登熟回避・・・出穂期を8月中旬に遅らせて、高温登熟による腹白、乳白米などの発生を軽減できる。
- 3) 穂発芽軽減・・・登熟期及び収穫期の秋雨による穂発芽を回避できる。
- 4) 収穫期分散・・・収穫期が9月下旬～10月上旬となり収穫作業が分散される。大規模作付け、複数品種作付けの場合に効果的。

営農に関する相談は、お近くの支店営農課にお問い合わせ下さい。